第65回 稲丘祭開催

Restart　～愛がなくては始まらない～

稲丘祭

校友会長　伊藤愛夏

11月1・2・3日、校友会最大のイベントである稲丘祭が開催しました。そして、私は、総務として運営させていただきました。

今年は、文化祭実行正副委員長を中心に稲丘祭のイメージを大きく変えようという目標でゴールデンウィークあたりから準備を始めました。全校が稲丘祭に関われるように工夫をしてきました。全校全員に係に所属してもらい、大会などで二・三日目に参加できない人でも文化祭気分を味わえるよう一日目にステージ発表をもうけました。ここに書き出せないほど多くのことを変えてきました。変えるためには役員や係長で話し合い先生方に提案し話し合いを重ねました。

今年の稲丘祭のテーマは Restart ～愛がなくては始まらない～です。テーマどおりの稲丘祭にすることが出来たと思います。前夜祭で行われたステージ発表では、どのクラスもクオリティーが高く、全校で盛り上がれたと感じます。たくさんクラスで練習を重ねてきたんだと思いクラス愛に感動しました。

二日目は、お客様に喜んでもらえるよう展示のほかに体験型をつくったり装飾に力を入れたり農産物販売で始めて整理券システムにするなど各係長中心に新しい取り組みをしました。また、公開中に周れなかった人が校内を周れるよう校内公開の時間を設け、全員が充実した文化祭になるよう工夫をこらしました。新しい企画ばかりのため課題はありますが充実した稲丘祭にすることが出来たと思います。

今年の稲丘祭を無事、成功することが出来たのは、服装などの身だしなみを守ってくださったり良い稲丘祭にしようと動いてくださった全校の皆さんのおかげです。ご協力、ありがとうございました。

新しくなった稲丘祭

文化祭実行副委員長　田中夢翔

今年の稲丘祭は「今までの稲丘祭とは違ったことをしよう」「お客様に楽しんでもらおう」「思い出に残るような稲丘祭にしよう」という思いで、企画・準備をしてきました。

そして迎えた前夜祭及び開祭式。クオリティーが高く、とても盛り上がったクラス発表に始まり、個性溢れた開祭ムービー、かっこよかった書道パフォーマンスととても良いスタートを切ることができました。

稲丘祭一日目の一般公開では、今年も朝早くから多くのお客様が来校して下さいました。目玉である農産物販売は大盛況でした。出店やどうぶつの森をテーマにした装飾、吹奏楽班や人形劇の発表をした特設ステージ、展示型から体験型に変更した学科展なども楽しんでもらえました。

稲丘祭二日目の体育祭は、新しい競技もあり楽しかったです。特にクラス対抗リレーの決勝は、白熱したレースでとても盛り上がりました。後夜祭の有志の発表も盛り上がりました。最後を締めくくる花火も例年よりも数が多くとても綺麗でした。

この三日間のためにずっと前から一生懸命準備をしてきて、お客様から「楽しかった」「体験型よかった」「新しい稲丘祭になった」などの声をいただきました。それを聞いて、うれしかったし、頑張ってよかったと思えました。

今年、大きく変えたことによりでた反省点を改善して、百周年である来年の稲丘祭をさらにいいものにしてください。

「ONE TEAM」から学ぶ

学校長　村澤博富美

「ONE TEAM」今では、子どもから大人まで誰もが知る、ラグビー・ワールドカップ日本代表のスローガンだ。今年の「新語・流行語大賞」の年間大賞にも選ばれた。この言葉が日本中を席巻したのも、日本代表チームの記録と記憶に残る大活躍が、広く日本人の心に深く刻まれた結果だろう。今まで8強進出は不可能と言われてきた日本ラグビー界の重い扉を抉じ開けた。自分の名誉にかけて、チームのために、日本のために、果敢に挑む選手たちの気迫のこもったプレーに、多くの人が自らの人生や経験を重ね合せたのだ。

ところで、「ONE TEAM」という言葉を、直感的なイメージで置き換えれば『一体感』、本質的な意味からすれば『チームワーク』であろう。しかし、この言葉を流行語として安易に使うだけでは、当然のことだが、ワンチームにはなれない。軽々しく使えば、日本チームに申し訳ない。この大会を目指して、これをチームスローガンとして掲げ、時には家族や自分の楽しみを犠牲にして優先してきたであろう選手たちを思うと、ぞんざいには扱えない無駄にはできないと、心が引き締まる。どのようにワンチームになったのか、それまでの過程や、その間の試練や克服、チームに対するメンバーの深い心情などに、思いを馳せることを忘れてはならない。

さて、一説によれば、「チーム＝TEAM」の語源は、「Together Everyone Achievement More」の頭文字をとったものだといわれている。すなわち、「みんなで、一緒に、より多くのことを、達成する」という意味だ。共通の目標のもとに、一人ひとりがそれぞれの役割と責任を果たすことで一丸となって取り組めば、一人が行うより、はるかに大きな業績を残すことができる、というわけだ。しかも、強い「絆」で結ばれ心の通い合うチームであれば、悲しみや苦しみは半分に、歓びは二倍、三倍になるだろう。現役時代の輝かしい実績から「サッカーの王様」と称されるブラジルの元サッカー選手ペレは、次の名言を残している。『人生のどのような場面でも、人間は一人では活動できない。私たちは常にあるチームの一員であり、皆がそれぞれの役割を持っており、それぞれに重要である。』と。スポーツは違えども、チームと個人の関係を実によく言い当てている。

それでは、「ONE TEAM」の意味するところを理解し、今の学校生活やこれからの人生において、チームや組織をどう盛り上げたらいいのだろうか。誰もが複数の組織・集団の一員であり、やがてはリーダーの立場になりうる。よりよいチームづくり・組織づくりのために、心得るべき三つのことを挙げたい。

一つ目は、「達成すべき共通の目的を持つ」ことだ。「チーム」と「グループ」との違いは、それがあるか否かである。しかも、「目標」だけでなく納得できる「目的」が存在することだ。目標は「ベスト8」であり、目的は「自分の夢のために」「日本の名誉のために」「チームや家族のために」となる。「目標」と「目的」はよく似た言葉であるが、意味は異なる。目標は「○○に向かって」であり、目的とは「○○のために」である。目的と目標は、目指すものという意味では同じだが、目的は、最終的に実現しよう、成し遂げよう、到達しようとして目指すもの。目標は、さしあたって実現させたり、成し遂げたり、到達しようと目指すものをいう。ただ、目標だけあって、目的がなかったら、困難にぶつかったとき、安易にその目標を断念してしまうだろう。目標と同時に目的を持っているからこそ、とても大きな力となる。何かに挑戦しようとするとき、特に「誰かのために」という目的があると、人は苦しくても諦めず、すごい力を発揮し、粘り強く困難を乗り越えられるのだ。

二つ目は、「信頼の人間関係をつくる」ことだ。代表チームのメンバーたちは、年間240日に及ぶ合宿をこなすなど、「すべての時間を犠牲にしてきた」という。「同じ釜の飯を食う」という諺があるが、まさに寝食を共にしながら同じ時間を過ごし、練習や戦略、技術について、意見や考えをとことん話し合ってきたことだろう。そんな深い人間関係から「絆」といえる信頼関係が生まれ、同じ目的や目標に向かうことができるのだ。

三つ目は、「一人ひとりが輝ける」ことだ。チームワークとは、自律したメンバーがそれぞれの個性や強みを活かしてチームに貢献するところにある。試合中、監督が選手に直接指示できないラグビーでは、自ら判断し的確にプレーできる「個」を育てることがチーム力を引き上げる。実際、「俊足の福岡」「キックの田村」「ジャッカルの姫野」「トライの松島」というように、各選手が持ち味を遺憾なく発揮したからこそ勝利を手繰り寄せることができた。一人ひとりが役割を持ち、その責任を果たし、特技を最大限に発揮し、チームのために貢献できる自発的な雰囲気が大事なのだ。

折しも来年は、下伊那農業高等学校「創立百周年」という大きな節目を迎える。人生100年時代といえども、誰にとっても無二の機会となるであろう。今までの歴史と伝統を礎に、下農の新たな飛躍を期したい。記念行事だけでなく、学習や班活動、農業クラブ活動、校友会活動、学級活動など、日常の多様な場面で、生徒・教員すべての心が、チーム「下農」の旗のもとで、「ONE HEART」になることを願っている。

学園タイムズ

発行所
下伊那農業高等学校
校友会新聞委員会
長野県飯田市鼎名古熊2366-4
電話 代表 飯田(22)5550番
発行責任者　北原紗里

【冬休み明けの日程】
SHR 8:45～
大掃除 8:55～9:15
始業式・学年集会・身だしなみ検査 9:25～10:15
1限目 10:20～11:10
2限目 11:20～12:10
3限目 12:20～13:10
1,2年生はテスト
3年生は(水)①②③授業

稲丘祭について

1年A組　勝又優希

稲丘祭は僕たち一年生にとっては、初めての文化祭でした。何をするのか楽しみでした。

準備からしっかりやっていきました。僕たちのところは竹を使ったことをやりました。堅くて、立派な竹を切ったり、塗ったり、色々、試行錯誤して自分たちのものを作り上げました。竹の短冊のようなものを僕たちは作りました。みんなと協力しあって、良いものが作り上げられたのでよかったです。

そして前夜祭では、練習してきたダンスを披露することになりました。練習は、もう少し頑張りたいところはあったけど、全員で力を合わせてやりきることができました。

そしてついに稲丘祭が始まりました。一日目は、僕は途中参加だったのですが、ほとんどが仕事ばかりだったと聞きました。それでも売店など、発表とか色々あって楽しむことができました。

二日目は、体育祭が僕の中ではメインでした。班活対抗リレーや、縄跳びなど、すごく楽しむことができました。

初めての稲丘祭で分からないことも多かったけど、楽しく無事に終えることができてよかったです。

稲丘祭

1年B組　小泉岳

今年の稲丘祭は、僕にとって初めての稲丘祭でした。

一日目は、前夜祭をしました。前夜祭のクラス発表のダンスは、本番自信を持って踊ることができるように、本番まで沢山練習しました。本番では、大きな声で楽しく踊ることができたのでよかったです。いろんな人から、おもしろかったという声が聞けてよかったです。

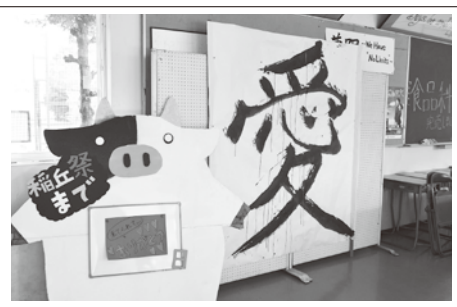
二日目は、一般公開でした。朝から、沢山の人が、玄関前に並んでいて、驚きました。僕は、係の仕事がありましたが、忘れることなく、自分の仕事をしっかりとできました。僕が担当していた展示の部屋にも、たくさんの人が来てくれていました。

また、自分もそれぞれの展示場所をまわって、いろんな展示物を見て、楽しむことができました。

三日目は、運動会がありました。クラスで団結して、それぞれの種目を頑張ってできました。また、みんなで楽しんだり、応援したりして、クラスの仲をより深めることができたと思います。

三日間の稲丘祭を通して、稲丘祭がどういうものなのか分かったし、楽しむことができました。また、係の仕事などの、与えられた仕事も、しっかりとやり通すことができたので、良かったです。

来年の、稲丘祭でも、今年のように、仕事をしっかりやれるようにしつつ、楽しめるようにしたいです。



初めての稲丘祭・収穫祭を終えて

1年C組　馬込柚花

今回、初めての稲丘祭・収穫祭を私達一年生は体験しました。

初めての事だらけで、戸惑いが少なからず随所にあったもののその中で精一杯頑張り、たくさんの思い出が作られました。そこでその三日間で特に印象に残った二つを書きたいと思います。

一つ目はクラス発表です。私達のクラスは少人数のグループで各々発表した後、最後全員で集まって一つの曲を踊るというメドレー方式でした。クラスで集まり練習するのは各自の班活動や係の仕事などがあり、皆で出来たのは、稲丘祭の準備も本格的に始動する頃ぐらいになってしまいました。休日に皆で集まり、一つの目標『クラス発表を良いものにする！』そこに向かって全力で取り組んで練習しました。この時間があったからこそ、本番でクラス全員が全力で踊っていたと思うしクラ内の仲も深まったのではないかと思います。

今回は、下伊那の高校の中で唯一、下農が行っている行事の収穫祭。その日まで私は正直、どういう風に行うのだろうかと思っていました。そしていざ当日になると、この学校で育てた作物を頂くというとても貴重な体験をさせていただきました。先輩方が豚コレラと格闘しながら飼育した豚をと格闘しながら養殖した豚をはじめ、小豆や果物。そして何より自分達が作った白菜も食べて、いつも食事が出来るありがたみや作物を作る大変さや食材への感謝…と書き出したらきりが無い程、収穫祭はたくさん学べた良い時間となりました。

今回の事を通して私は、今後の学びに活かしていきたいと振り返って改めて感じました。

初めての稲丘祭

1年D組　眞野陽夏

私たち一年生にとって、初めての稲丘祭は、とても充実していて、有意義な三日間となりました。前日からすごく楽しみで、準備をしている時から初めての稲丘祭を楽しみにしていました。

一日目は、前夜祭で、各クラスのステージ発表を見ました。私たちのクラスでは、3曲のメドレーを踊りました。成功できたのは、私たちの練習の成果はもちろん、会場の盛り上げのおかげだと感じました。どのクラスの発表も個性豊かで、飽きることなく最初から最後までずっと楽しかったです。

二日目は一般公開で、予想以上の来場者が来ていてびっくりしました。二、三年生の屋台の食べ物はどれもおいしくて、来年は私たちも頑張りたいと思いました。

三日目は、体育祭でした。私は大縄跳びをやりましたが、どの競技に出ていた人もみんな全力で頑張っていて、応援をしている方も全力で楽しむことができました。その後の後夜祭は、三年生たちの発表ですごく盛り上がって、会場の全員が一体となって楽しめました。

初めての稲丘祭は私たち一年生にとってもすごくいいものになりました。だからこそ来年の稲丘祭は今年に負けないくらいいいものになればいいなと思いました。来年も再来年も楽しみです。

二回目の稲丘祭

2年A組　小平真帆

今年の稲丘祭のテーマは、「Ｒｅｓｔａｒｔ～愛がなくては始まらない～」でした。テーマの通り昨年とは、違う新しい文化祭を全校で作り上げられたのではないかと思いました。来年は百周年ということもあり、その土台を今年作ってくださったのだと思います。

昨年は無かった係もあり稲丘祭をさらに盛り上げられたと思います。私はその中の百周年係に携わりました。百周年の展示物で稲丘祭がさらに活気に包まれたと思います。

迎えた当日。たくさんの方が早朝から並んでくださっていました。新しい企画でクイズ大会というものがあり、それに出たのですがとても楽しかったです。クイズも下農ならではでよかったです。

一般公開終了後には、生徒だけがまわれる時間もありクラス展示など見ることができました。とても楽しくまわれました。

二日目の体育祭、後夜祭も盛り上がることができました。二回目の稲丘祭が最高の思い出になりました。

校友会のみなさんが中心となって作りあげた稲丘祭はよい型で終わることができてよかったです。来年は、今年作り上げられた土台を生かしてよりよい稲丘祭にできるよう下農の一人として頑張りたいです

楽しかった稲丘祭

2年B組　岡田初

11月2～4日にかけて稲丘祭がありました。

1日目は前日、心がたかぶり楽しみすぎて夜寝る事ができず、翌朝すさまじい頭痛がしたのでやむおえず欠席となってしまいました。

2日目はなんとか体調がおちついたので参加することが出来ました。

外部からも大勢の方々が朝早くから行列が出来る程来て下さり心から喜びという感情が溢れだしました。行列の中には中学生の時の知り合いがいました。久々に見る知り合いの顔はなにか懐かしい物を感じ、しばらく雑談をした後、屋台を見てまわりました。牛串やタピオカなどとても魅力的な物ばかりでした。あんさかと「知り合いにたかっておごってもらおう」となんともゲスい考えをして知り合いを探しました。しばらくすると見覚えのあるサングラスと黒いコートを着た人を見つけました。その人は石田くんでした。彼はまるでゴルゴ13、西部警察も顔負けのオーラをはなっていました。うどんと牛串を買ってくれました。おいしかったです。うどんはこしがありとてもおいしかったです。牛串は安定でおいしかったです。そんなこんなで2日目が終わりました。

3日目は特になんともありませんでした。

稲丘祭で印象に残ったこと

2年C組　大澤あい

先日稲丘祭がありました。今年で二回目の稲丘祭で、私は特に、体育祭と、草花のハーバリウム体験が楽しみでした。

前夜祭では、クラスムービーがとても面白かったし、どう森のムービーも盛り上がってとても楽しかったです。

稲丘祭一日目では、朝から農産物の販売係をやりました。昨年も同じことをやりましたが、たくさんの人が一気に買いにこられて、お客さんにレジが足りないと注意を受けたり、何人もの人を待たせてしまうことなどがあってとても大変でした。しかし今年は整理券があったおかげで、一気に人が来ることなく、自分で次にできることをよく考えて、みんなで協力してスムーズに販売することができたのでとても良かったです。次はお昼を食べた後、ハーバリウム体験の当番に行きました。私が行った時はもうほとんど完売していて、自分の作った商品が売れているか見たところ、失敗してしまっていたので売れ残っていました。なので、次に作る時はもっときれいに作れるように頑張ろうと思いました。

稲丘祭二日目は、クラス発表が大成功しました。劇をやって、私は裏方でしたが、出ていない時も盛り上がっている感じがすごく伝わってきたのでとても楽しかったです。他クラスの発表も、完成度がすごく高くて、とても面白かったです。体育祭では、障害物リレーで一位や、クラス代表リレーで決勝戦へ進むなど、すごく良い記録を残せていてすごいと思いました。私は大縄跳びに出ましたが、スムーズに跳べなかったりと苦戦しました。結果は上位は取れませんでしたが、みんなで協力して頑張ることができたので良かったです。

稲丘祭で、楽しい思い出をいっぱい作れたし、クラスの絆がより深まったので良かったです。

稲丘祭の思い出

2年D組　島　健心

私は稲丘祭が2回目でとても楽しみにしていて前夜祭からとても楽しくクラス発表をして自分のクラスだけでなく他のクラスの発表を見てクラスごとの良さや個性が出ていて発表をしてても楽しかったし、見てても楽しかったです。

体育祭では自分はリレーに出場しました。自分たちのクラスは最初の2年生対抗のリレーで2位になって決勝に上がれないと思っていたけどギリギリ4位になって決勝に上がることができました。

決勝では1回目走った時より2回目走った時の方がとても良い走りが出来たので自分たちのクラスは2位になることが出来ました。

この稲丘祭を通してクラスの仲がより深く良くなったと思ったし今回の文化祭は様々な企画があってこの3日間どの日も楽しむことが出来ました。

また改めて文化祭を通して地域の人に下農は愛されていることが分かりました。

感想文

3年B組　倉澤　裕矢

文化祭を終えてもう1ヵ月たとうとしています。私は正直今でもあの時の時間に戻りたいなどと考えてしまいます。今年の文化祭は例年とは違った企画などがあり本当に楽しかったです。しかし、当日だけが文化祭ではなく準備や片付けも含め文化祭だと思います。

今年の文化祭の準備はやる人とやらない人の差が激しいように感じました。役員はじめ大変な人はすごく大変なのに暇な人がいる。私はもっと仕事の割り振りを明確にし、足りなかったらどうするかなど考えればもっとスムーズに準備が行えたのではと考えています。

私も文化祭の準備にはあまり関われなくてとても残念でした。すぐに帰りたい人も居るし、関わりたい人も居るので個々の意見も取り入れていけると更に楽しい文化祭の準備になるのではと思います。

今年で下農の文化祭の準備に携われなくて本当に残念です。一般の人は文化祭には来れても準備などは出来ないので後輩は貴重な機会を存分に楽しんで欲しいです。

稲丘祭を終えて

3年A組　小林　姫奈

今年度の稲丘祭は、昨年度までの稲丘祭と比べ、新しい試みに満ちたものでした。例えば、農産物販売や特設ステージ、第一体育館での学科展など。がらっと変わっているところもあり、すごいなぁと感じました。もちろん不安を感じる時もありましたが、事前に準備していたものが使われているのを見つけたり、足を運んでくれた方々が楽しそうにしているのを見たりすると、安心とやりがいを感じました。

クラスではタピオカとシカ革製品作りの体験、販売を行いました。タピオカではもっとスムーズに動けたのではないか、シカ革ではもっと分かりやすく手順を教えられたのではないか、と反省点もたくさんありましたが、来校者に喜んでもらうことができたので良かったと思います。

稲丘祭を終えて、私の中でできた反省は、忘れないように、次へいかしていきたいと思います。

稲丘祭

3年C組　市岡　真梨乃

11月2日、3日に稲丘祭がありました。今年は最後の稲丘祭で、私は特に二日目の体育祭を楽しみにしていました。C組は、クラス代表リレーで一位を取ることができ、その他の競技も結果がよく、総合成績で一位でした。競技をやっている人もやっていない人も最後まであきらめずクラスで団結して応援したり、競技に参加することができました。高校生活最後の体育祭でみんなで良い思い出が作れてよかったです。

クラス発表では、直前までみんなで意見を交わしながら全員が納得のいく発表をすることができ、よかったです。他のクラスもクオリティがすごく高くて見ていてとても楽しかったし、一緒に盛り上がることができました。最優秀賞は取れなかったけど、練習のときからみんなで楽しみながらやっていくことができてよかったです。

高校生活の行事がどんどん終わっていってとてもさみしいけど、残りの学校生活を無駄にしないようにみんなで楽しんで、たくさん思い出を作っていきたいです。

最後の稲丘祭が一番充実したものになってよかったです。

稲　丘　祭

3年D組　遠山　和加菜

11月2日から、高校生活ラストの文化祭が始まりました。今年は前夜祭でのダンスや、一般公開の出店、体育祭とクラス全員で取り組むものが多かった印象です。ダンスは、曲決めから始まり放課後の練習から発表まで、本当に頑張ったなと思います。クラスにダンス経験者がいなかった分、一人一人が個人で覚えてきてお互いに教え合う姿が、すごく良く、文化祭が近づいてきたと実感しました。

たくさん練習したからこそ、本番は上手くいったと思います。最高の思い出ですね。

出店も代表者を先頭にやり切ることができました。大変ではあったものの、それよりも楽しかったという気持ちが勝つような、充実した時間でした。

今年の文化祭は今までと時間割りが変わったけど、また違った感じで楽しめました。自由時間があったおかげで校舎内をゆっくり回ることができました。また、個人的に「あなたに愛たい稲丘祭」が一番楽しかったです。ちなみに、「会いたい」ではなく「愛たい」なのがポイントだと風のうわさで聞きました。他学年・他クラスとの交流はなかなかできないので嬉しかったです。色々な人と話しました。急に話しかけられた子達ごめんなさい。これを機に仲良くなった人もいると思うのですごくいい企画でした。

最後に、文化祭を終えてどうぶつの森がやりたくなりました。動画も装飾も可愛かったです。

収穫祭

収穫祭が終わって

1年C組　牧内　咲乃

私は、初めての収穫祭を終えて思ったことが二つあります。

一つ目は、生徒発表です。生徒発表の中でもたくさんの発表がありましたが、その中でも一番興味深いなと思ったのが、海外研修での発表です。私は、海外には行ったことがないですが行ってみたいなとも思っていました。なので、先輩方の発表はすごく興味深かったです。実際、先輩方の話を聞いて、日本人と外国人は、やはり人がらも生活スタイルも違うので外国に行くと自分の中での価値観や自分もいい意味で変えてくれるのかなと思いました。自分の中で悩んでいた物が外国に行って少し価値観も変わりいい方向に進んでくれるのかなと先輩方の話を聞いて思いました。また、他の発表もすごく興味深く、私には思いつけない考え・仮説を立て実技を繰り返して学習を進めていてすごいなと思いました。

二つ目は、クラスのみんなとの食事です。前日に先輩方が一生懸命頑張って下さって作ってくれた食事はすごくおいしかったです。みんなと食べるとよりおいしく楽しかったです。

この日は、より食べ物のありがたさをかみしめて食べることができました。初めてでしたが、楽しかったです。

収穫祭の思い出

2年D組　榛葉　隆良

11月14日に収穫祭がありました。

収穫祭は学校の行事の中でもすごく大切な行事の一つらしいです。

主な内容は、研究の成果の発表やさまざまな分野で行った活動の発表や大会の表彰などがありました。

また合唱を選択した人たちによる歌の発表もありました。

まずさまざまな分野の人たちによる研究の発表がありました。どの分野の人たちもとても内容が濃くさまざま研究をやっていて聞いていてとてもおもしろかったし色々なことを知ることができました。また活動の発表もとてもおもしろかったし聞きやすかったです。

次にいろいろな大会の表彰がありました。この学校からさまざまな大会に出て表彰されている人がいてとてもすごいことだと思いました。

また歌の発表もすごく迫力があってよかったです。

そして昼食は下農のもので作った豚汁と赤飯と漬け物、そしてリンゴがでました。どれもおいしかったです。

今年もいい収穫祭ができてとてもよかったです。

収穫祭を振り返って

3年B組　北沢　應也

11月の15日に収穫祭が行われました。まず、体育館に全校生徒が集まり、各学科班のプロジェクトの発表を聞いたりしました。みなさんが努力をして作り上げた成果をとても感じました。また、PTA会長の知久さんのお話を聞きました。私の家庭では、母が作ってくれた料理を、私が残してしまい、そのまま放置してしまいました。その結果、料理はいたんでしまい、食べられなくなってしまうことがよくありました。しかし、知久さんのお話を聞いて、動物を飼育する難しさや、農家の方たちの思いなどを感じることができて、食に対する感謝の気持ちは大切だということを改めて知ることができました。

各発表やお話が終わった後は、教室で豚汁と赤飯をいただきました。食に対する感謝を忘れずに食べることができたので、いつもよりおいしかったです。

農業高校だからこそ感じることのできる感謝の気持ちや、食の大切さを考えることのできた良い収穫祭になりました。

見学旅行

見学旅行

2年A組　小池里桜

私たちは10月2日～4日の3日間、見学旅行に行きました。1日目に広島へ行きました。お昼に広島焼きを食べ、平和学習をしました。平和記念公園に行くのは初めてでしたが、実際にドームや資料館を見ると当時の様子がはっきりと伝わってきて心が痛みました。被爆者の方の講話では、経験した方にしか分からないことをたくさん教えていただき、いろいろなことを学ばせていただきました。今回の平和学習を機に、改めて平和について考えるよいきっかけになったと思います。

2日目は岡山・兵庫です。倉敷にある美観地区で自由行動をしました。風情ある街並みはすごくきれいで、とても楽しかったです。夜は神戸港のディナークルーズでした。少し雨は降っていましたが、船から見る夜景は格別で、また美味しいご飯を食べることができ、貴重な体験になりました。

3日目は大阪で食品サンプル作り、自由行動をしました。食品サンプルはたこ焼き、タルトを作る人に分かれ、体験をしました。少し難しかったですが、本物に近いものができ、満足でした。次に自由行動です。班ごとそれぞれの場所に行き、楽しみました。電車移動をしたところもあり、よい勉強になったと思います。

この3日間はたくさんのことを学び普段はすることのできない貴重な体験ができ、とても充実した旅行になりました。今回学んだことを生かし、これからの学校生活を楽しんでいけたらいいなと思います。

楽しかった見学旅行

2年B組　岡田初

10月の2～4日に見学旅行にいって参りました。

朝4時に学校を出発して空港に行きました。飛行機で福岡に行きました。飛行機はとても大きかったです。2時間程空の旅を楽しみました。別に怖くはなかったです。同じ飛行機に五郎丸さんが乗っていたらしいですが見えませんでした。飛行機を降りたらバスに乗りました。ゆかりんの楽しいガイドを聞きながらゆかいな地面の旅が始まりました。そしてお昼ご飯を食べました。お昼はとりそぼろのご飯とラーメンでした。口に入れた瞬間にそぼろがほろほろとくずれてとてもおいしかったです。ラーメンはいい温度でした。お昼の後は車の工場へ行きました。DVDを見て工場を見学しました。とても分かりやすく説明してくださり分かりやすかったです。将来の選択も少しだけ広がりました。その後はグラバー園へ行きました。その後から班別行動で長崎をプラプラしました。まずは眼鏡橋へ行きました。とても幻想的で美しい景色でした。まるで心が洗われるようでした。次にアニメイトに行きました。とても神聖でした。そしてホテルへ行きました。2日目は大阪で行動をしました。いろいろなことがあった3日間、とても楽しかったです。

見学旅行で印象的だったこと

2年C組　木下稚葉

いろいろな場所へ行った見学旅行の中でも、私が最も印象的だったのは、場所というよりも、初めて乗った飛行機とフェリーです。

飛行機は、愛知県のセントレアから福岡の空港まで乗りました。私は空港に入るのも初めてで、バスからセントレアが見えてきた時点でもうとてもワクワクしていました。空港の建物内の床がほどよくツルツルで、今まで知らなかったような質感らしく、これはスーツケースを運びやすいようになっているのかな、ツルツルすぎてもだめだったりするのかな、というようなことを考えました。

離陸の瞬間が一番ワクワクしました。聞いていた通り、「あ、今離陸したな」とはっきり分かりました。それからはあっという間で、窓から外の景色を眺めたりしながら過ごしました。

フェリーは、長崎から神戸まで乗りました。私は船に乗るのも初めてで、とても楽しみにしていました。部屋は二段ベッドが2台と、小さいテーブル、いす、洗面台、クローゼットだけのコンパクトな仕様で、狭かったですが、逆にその狭さが楽しさの理由の一つになりました。

出港の瞬間、確かに「あ、動き出したな」という感覚があり、振動が伝わってきて、自分は今船に乗っているんだなと実感しました。

旅行は旅先だけでなく、移動の時の楽しさもあると言いますが、見学旅行ではそれを改めて感じることができました。

見学旅行

2年D組　榛葉隆良

10月の2～4日に長崎と大阪の見学旅行に行きました。

まず長崎の原爆投下地で平和セレモニーと原爆資料館の見学を行いました。セレモニーは平和についてしっかりと考えながら臨みました。また資料館では原爆の恐ろしさを知り、平和についていろいろなことを考えさせられました。

これで1日目は終わり、宿で一泊しました。

2日目はまず長崎のちゃんぽん作りの体験をしました。本場のちゃんぽんの味やどのような材料でちゃんぽんが作られているのかなどについてさまざまなことを知ることができてよかったです。

次にカステラランドでカステラ作り体験をしました。カステラの作り方などについて学べていい経験になりました。作ったカステラはそれぞれの土産として持ち帰りました。

そしてバスでフェリーまで移動して2日目は海の上のフェリーの中で一泊しました。

そして次の日の朝に大阪の港に着き、まず木津市場の見学をしました。いろいろな魚などが売られていてとてもおもしろかったです。また木津市場の歴史について知ることができました。

次に食品サンプル作りの体験をしました。サンプルの作り方を学べてとても楽しくいい経験になりました。

そして大阪での自由行動ではいろいろなものを見たり、食べたりし、またいろいろなお土産も買いました。

とてもいい見学旅行になってよかったと思います。

丘の風

2学期は、稲丘祭や収穫祭がありました。みんな楽しむところは全力で楽しめたと思うし、ちゃんとするとこはちゃんとして、メリハリをつけて学校生活を送れたと思います。

いきなり原稿依頼をした人もありましたが、締め切りまでに書いてくれて助かりました。ご協力ありがとうございました。

（新聞委員長　北原紗里）

（副委員長　西澤優里）